

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊田市立前林中学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☒ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒473-0934 愛知県豊田市前林町行田 6 0
E-mail c-maebayashi@toyota.ed.jp
Website http://www2.toyota.ed.jp/swas/index.php?id=c_maebayashi
幼児児童生徒数 男子 368 名 女子 341 名 合計 709 名
幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～ 15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

生徒の主体性を育てるために、総合的な学習の時間の効果的授業実践について研究を進めている。本校では、自分たちで課題を設定して解決に向けて追究する活動を M プロジェクトと名付けて行っている。年間カリキュラムの中に、「課題設定→追究計画の立案→追究活動→まとめ→情報の発信」といった生徒の主体的な動きを促すプロセスを設定している。この活動では ESD の視点に立って授業の改善を行っている。

また、生徒の地域社会の役立に立つために進んで行動したいという思いを育て、地域の施設や人材の活用、地域の方々との交流、地域貢献活動等を設定し、地域社会に主体的に生きる前中生の育成をめざしている。

①「地域とかかわる～あしたをつかめ～」

1 年生は、職業観を養うために、地元愛知県にはどのような産業があるのかを調べた。まず、ものづくりを実体験するために、瀬戸の産業である陶芸体験を行った。実際にものづくりをする体験を通して、自分の思いをモノにしていける楽しさや難しさを感じることができた。陶芸体験によって、ものづくりに対する意識が高まった後に、愛知県ではどのような産業があるのか、個人課題を設定し、調

べ、産業新聞にまとめていくことを行った。そして、お互いに産業新聞を発表し合う中で、愛知県にはさまざまな分野の産業があることに気づくことができた。産業調べで、ものづくりに関わる職業について関心を高められた。そこで、職業について考えていくことにした。自分の将来の夢を実現していくためには、どのような職業が合っているのかを考えるために、友達と意見交流を行ったり、進路適性検査を実施したりした。また、学校区をはじめ、豊田市で様々な職場で働く方をお招きし、働くことのやりがいや苦労などを直に学ぶ機会を設けた。

その後、職業について関心が高まったところで、生徒一人ひとりで調べたい職業を設定し、職業調べを行い、パンフレットにまとめていった。職業調べでは、地域の図書館から借りてきた文献資料、インターネットを使用して情報を集めた。そして、パンフレットの形でまとめ、発表会を実施した。様々な職業についての発表を聞く中で、生徒達は働くことに対する前向きな気持ちを高めていくことができた。

②「後輩のために、私たちにできることは何だろう」

2年生では堤小学校6年生・駒場小学校6年生との連携した英語授業を行い、かわりを持っている。6年生が修学旅行を迎える2～3週間前をめぐりに交流の機会を設定する。6年生は、修学旅行の京都や奈良で出会う外国人にインタビューをするという課題をもって参加する。そのためにすでに英語の学習を進めている中学生を外国人役に見立て、インタビュー活動の練習を事前に行うというのが授業の内容である。小学校の先生が外国人との対話の例を作成し、それを小中学生がそれぞれの学校で事前に練習を重ね、交流の日を迎える。交流の時の生徒の様子としては、小学生とも初めて顔を合わすこともあり、対話時に積極的に小学生に話しかけられなかった生徒やアイコンタクトが思うように取れなかった生徒が多かった。しかし、交流の回数を重ねると生徒は要領を得て、自信をもって活動するようになる。

③「地域と結びつき、私たちにできることは何だろう」

3年生は、防災について考えるための学習や救急救命講習などの防災体験を行ってきた。これらの活動から生徒は前林中学校が災害時に避難所となった時には自分たちには何ができるだろうかという課題をもった。そこで、避難場シミュレーションゲームを行った。この学習を通して、生徒は避難所でも自分たち中学生でも地域の人のために貢献できることを知った。実際に本校の給水ポンプの設置や非常用トイレの組み立てを行った。また、防災倉庫の備蓄品の確認を行った。生徒にとっては備蓄品の量が考えていた以上に少ないことに驚いた。そこで、少しでも自分たちで備蓄品を増やすことはできないかと考え、地域の商店や企業の協力を得て、アルミ缶を回収し、備蓄品を購入することを考えた。商店や企業を一軒一軒生徒が回り協力を得て活動を行い、アルミブランケットを購入することができた。



①働く方に学ぶ会

②英語でのインタビュー活動

③避難所開設シミュレーション

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

生徒の主体性を育てるために、総合的な学習の時間の効果的授業実践について研究を進めている。年間カリキュラムの中に、「課題設定→追究計画の立案→追究活動→まとめ→情報の発信」といった生徒の主体的な動きを促すプロセスを意識して設定するように工夫している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

総合的な学習部が中心となって３年間の活動計画を組み、継続的な活動ができるように、各学年で年間活動計画を作成するようにしている。年間計画を作成する際には、各教科との関連性を把握し、活動を系統的に実施できるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

教員学校評価にて内部評価を行い、学校アドバイザーからのご意見や保護者への学校アンケートによる評価を行った。その結果から、ユネスコスクールの活動として認識度が低いことが明らかになった。ユネスコスクールの活動が通常の学校での活動と混同していて、改めてユネスコスクールの活動とアピールすることが必要であることが課題となる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校のホームページにて、活動の様子を随時発信している。生徒の活動の様子は保護者、地域の方への幅広い理解となっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

現在は、学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成は行っていないですが、今後は地域コミュニティと協働して活動ができるようなことを考えていきたいです。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

国内外のユネスコスクールとの交流やネットワーク形成は行っていません。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

年間カリキュラムの中に、「課題設定→追究計画の立案→追究活動→まとめ→情報の発信」といった生徒の主体的な動きを促すプロセスを意識して設定している。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 30 年度は、生徒の主体性を育てるために、総合的な学習の時間の効果的授業実践について研究をさらに進める。年間カリキュラムの中に、「課題設定→追究計画の立案→追究活動→まとめ→情報の発信」といった生徒の主体的な動きを促すプロセスを意識して設定するために現在活動計画を作成している。